

公開・非公開の別

■公開・□部分公開
□非公開

令和7年度 第1回浜松市立図書館協議会 会議録

1 開催日時 令和7年6月24日（火） 午前10時00分から12時00分まで

2 開催場所 浜松市立中央図書館 大会議室

3 出席状況 委員：岡田 建志、清水 友理子、遠藤 浩子、井手 千恵子、
大木 舞帆、永田 浩介、三宅 栄子、三津間 洋子

事務局：

文化振興担当部長 嶋野聡、
中央図書館長 枝村賢美、
中央図書館館長補佐 齋藤慎悟、
図書館管理グループ長 宮崎真理、
図書館サービスグループ長 島野陽子、
調査支援グループ長 川崎智子、
資料・情報グループ長 鶴飼康生、
天竜図書館長 笹竹由美子、春野図書館長 梶田和彦、
佐久間図書館長 奥山享司、水窪図書館長（代理） 田中裕彦、
龍山図書館長 鈴木忠、
中央図書館 森田ひとみ主任、北村麗風、加藤蓮斗

4 傍聴者 0人（一般：0人、記者：0人）

5 議事内容 （1）令和6年度事業報告
（2）令和6年度図書館評価
（3）令和7年度主要事業計画
（4）その他

6 会議録作成者 図書館管理グループ 北村麗風

7 記録の方法 発言者の要点記録

8 会議記録

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 文化振興担当部長あいさつ
- 4 議題

(1) 令和6年度事業報告

島野図書館サービスグループ長が説明

◆資料1 令和6年度事業報告

質 問 意 見

三 津 間 委 員 読書バリアフリー体験会とは、どのような内容であるのか知りたい。

島 野 G 長 読書バリアフリーとは、視覚障がい者や活字での読書が困難な利用者へのサービスである。体験会では、大活字本や点字図書、機械が読みあげてくれるマルチメディアDAISY図書、LLブック(やさしい日本語)の紹介、拡大読書器の体験などを行っている。

三 津 間 委 員 昨年の図書館協議会で、中学生ボランティア説明会のチラシ配布について話し合ったが、昨年と比べて改善されているようで良いと感じた。浜松市教育研究会は、年に3回研修を行っており、市内全校の職員が参加するため、周知する機会として今後も活用してもらいたい。

また、情報活用講座を実施しているが、「情報活用講座」という名前、PR方法、内容のどれが原因かは分からないが、参加人数が5人のみであるのは惜しいと感じる。先ほど、「パパママ絵本講座」を「絵本講座～おうちで読み聞かせを楽しもう～」に移行したという話があった。その移行で成果があった1つの要因として、講座のネーミングが変わったことも関係していると思う。パパママだけでなく、祖父母等も参加しやすいものになっている。情報活用講座は、開催回数を重ねていても参加者が増えていないので、何か改善が必要であると思うがどうか。

島 野 G 長 ネーミングという点において貴重なご意見として受け取らせていただく。

情報活用講座の対象である中高生は、閲覧席のみの利用が多く、カウンターに立ち寄る人数が少ない。そのため、講座やイベントの周知において、難しいと感じているところである。
ネーミングも含め、今後検討していきたい。

三 津 間 委 員 図書館が、高校生と個人で繋がるのはとても難しいことであると思う。学校などの大きな受け口が必要ではないか。

岡 田 会 長	確認だが、資料１の８ページの「図書館活用講座」は、中高生より上の年齢層で「情報活用講座」に興味のある利用者が多かったため、開催することになった経緯があるということで良いか。
島 野 G 長	そのとおりである。「情報活用講座」のチラシを見て、自分が対象でないことを残念に感じている利用者を多く見かけ、中高生より上の年齢層への需要が高いのではないかと考え、情報活用に関わる講座を「図書館活用講座」として開催した。
岡 田 会 長	「情報活用講座」だけでなく、何についての情報なのか副題を追加すると、講座名を見るだけで伝わりやすくていいのではないか。 また、小中学校は、ほとんどが市立であるが、高校はほとんどが市立でないため、情報発信や、周知の方法としてどのような方法をとっているのか知りたい。
島 野 G 長	高校には、個別にチラシを持っていくのは難しいため、高校の協力をいただけるように今後進めていきたいと考えている。
三 津 間 委 員	以前、高校と図書館が繋がり、連携してイベントを行ったという事例があったが、その時は国語の先生が高校と図書館をつなげてくれたと記憶している。先生などの個人と図書館が繋がっていく方法が有効であると思うがどうか。
枝 村 館 長	以前に天竜高校と連携した展示を行った。資料１の１２ページ、上から２行目の「決定！天竜文学賞」というものである。高校生が作品を選んで、文学賞とする内容であった。
笹 竹 館 長 (天竜図書館)	天竜文学賞は、学校側から図書館にお声がけをいただき、実施した展示である。天竜、春野、佐久間図書館の３館にて実施した。現在、天竜図書館を利用しており、個人的なつながりのある天竜高校の先生が数名いるので、地域の図書館と地域の学校が繋がっていく１つのきっかけになるのではないかと考えている。
三 津 間 委 員	先生は、県立高校間での転勤があるので、様々な高校に行くことでさらに図書館との繋がりが広がっていくことを期待する。
笹 竹 館 長 (天竜図書館)	高校の先生に図書館を利用してもらえるようなPRが効果的なのではないかと考えている。生徒は３年で卒業してしまうが、先生は長い期間、先生として図書館と関わるので、積極的に先生へ向けたPRも行っていきたい。

(2) 令和6年度図書館評価

宮崎図書館管理グループ長が説明

- ◆資料2 図書館評価について
- ◆資料3 図書館評価の方法について
- ◆資料4 令和6年度浜松市立図書館評価指標(自己評価)
- ◆資料5 浜松市立図書館評価(令和6年度)案

三宅委員 資料3の3ページ、「今後に向けた課題」の欄に、「やさしい日本語」の活用とあるが、どのようなサービスであるのか知りたい。

島野G長 今まで、英語・ポルトガル語・中国語の3言語を主に作成してきたが、多言語化が進み、3言語のみでは対応することができなくなってきている。そこで、やさしい日本語を用いて、日本語で対応するということを進めていこうと考えている。

三津間委員 「やさしい日本語」の活用はすごく有効であると思う。義務教育をうけている外国の子どもたちは、学校側が時間を作って日本語を勉強することがある。
日本で勉強する外国の子どもたちにとって、日本語を習得することは必要不可欠である。そのため、日本語での案内を行う「やさしい日本語」のサービスは、子どもたちにとっても将来につながる良いサービスであると感じた。

三宅委員 「やさしい日本語」のことが分かる本などはあるのか。

島野G長 ある。「やさしい日本語」の例を挙げると、漢語ではなく和語を用いるなどである。例えば、「集合する」ではなく、「集まる」と言い換える。国際課の外国人学習支援センターに、「やさしい日本語」の使い方についてアドバイスをもらうなど、協力をいただいている。

三宅委員 中央図書館で活用しているのか。

島野G長 利用案内の文章で活用し、全館で配布を予定している。

清水委員 資料5の8ページでも、XやInstagramでの発信について報告されているが、実際に閲覧した数や、「いいね」の数、フォロワーの増加数など、発信に対しての利用者の反応数も、目標の基準に加えると良いのではないかと感じた。

鵜飼G長 現在は、投稿等に関する反応の数字について統計を取ってはいないが、今後改善していきたい。

清水委員 8ページの評価指標の「3 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等でのパブリシティ件数」に置いて、評価数が3になっているが、判断基準や要因について詳しい説明をいただきたい。

枝村館長 要因まではつかめていないが、資料4の2ページ《つくる》3の欄について、令和6年度も大きく数を伸ばせてはいないという点において判断した。また、新聞や雑誌等に掲載したいと思ってもらえるイベントやサービスを提供していくことが大切であると考えているため、今後もその点を意識していきたい。

清 水 委 員	現在、大学で観光について教えている。「どうする家康」以降、浜松の魅力をどのように伝えていくか難しいと感じている。そのため、図書館としての現時点での取り組みを聞かせてもらった。
岡 田 会 長	XやInstagram、新聞雑誌など、様々な媒体での統計を取ることが今後必要になるのではないかと感じた。また、閲覧数や、新聞を読んでいる人数などとかけ合わせて数字を算出していければ良いと感じた。情報を集めるのは大変になると思うが、様々な視点から分析してほしい。
三 宅 委 員	資料5の6ページの自治体、企業、各種団体との連携という取組について、資料1からも様々な連携展示を行っていることが分かる。学校や保育園との連携も数字に含まれているのか知りたい。
宮 崎 G 長	全て含まれている。
三 宅 委 員	子どもとの展示は、親世代や祖父母などが見に来る。今後、さらに色々な図書館で、地域の小学校や幼稚園と連携して展示等を行っていくと良いのではないかと。
宮 崎 G 長	貴重なご意見として参考にさせていただく。
三 津 間 委 員	7ページの「おでかけ絵本講座」は、基本直営館の職員が行うものか。
島 野 G 長	そのとおりである。
三 津 間 委 員	1期目の時に、職員への研修の数値が低く、充実させていくべきではないかとお伝えした。今は充実していると感じる。 例えば、おでかけ絵本講座は、相手の反応を見ながら行うため、練習として職員相手に行うこともあると思われる。それも研修のひとつとして実施みてはどうか。
島 野 G 長	おでかけ絵本講座は、主には保護者やボランティアなどの大人を対象に、読み聞かせの大切さなどを伝えるものである。昨年度は、幼児相手に読み聞かせをする機会のある中学生を対象に、講座を行うこともあった。講座・研修の内容について、ご意見をもとに検討していきたい。
三 津 間 委 員	中学での「技術」の科目は、他分野にわたっている。栽培やプログラミングなどに加え、保育の分野も勉強している。おでかけ絵本講座は、中学生が幼児と関わる機会においても、活用でき、需要があると思う。
永 田 委 員	有効登録者数についての質問である。全体では減少傾向にあるが、増加している館もあるのか知りたい。
鵜 飼 G 長	中央図書館で導入している座席予約システムは、利用者登録がないと使用できないため、その点において登録数は伸びている。だが、全体としては減少傾向である。
永 田 委 員	資料1の3ページの一番下の「オンライン」とは、何のことなのか。
鵜 飼 G 長	図書館利用アプリでは、来館せずにマイナンバーカードで利用者登録ができるため、その方法で登録した数値である。毎日数件ずつだが、現時点では734件の登録がある。

永 田 委 員	人口比にすると、これからもオンラインでの登録者数は伸びる予定であるか。
鵜 飼 G 長	あくまで、アプリで新規に登録した人数であるため、既に登録済みの利用者はカウントされない。また、マイナンバーカードが必要になることに加え、市内在住者のみに限られてしまうため、少しずつ増えていくとは思われるが、数については何とも言えない。
永 田 委 員	有効登録者数の表を見ると、龍山図書館がとても少ない。青年会議所でも、会員の拡大が組織の発展に大きな影響を与える。今後、有効登録者数を増やすという面で積極的に動いてほしい。
井 手 委 員	資料5の4ページの利用に関するアンケートの満足度は3.9である。この評価をもとに来年度講座の計画の参考にすると思うが、具体的に人気な講座、または評価の低い講座があれば知りたい。
島 野 G 長	読書推進講演会や子ども読書推進講演会などは、毎年楽しみにしてくださっている利用者もあり、申込数もアンケート結果からも好評であったと言えるが、明確に人気の講座などとしては把握おらず、回答するのは難しい。
三 宅 委 員	アンケート結果だけでは分からないことが多いと思う。その事業に関わっていないのに「普通」と回答することもあるので、アンケート結果を鵜呑みにするわけではなく、多方面から進めていってほしい。
(3) 令和7年度主要事業計画について 島野図書館サービスグループ長が説明 ◆資料6 令和7年度主要事業計画	
遠 藤 委 員	ストーリーテリングの講座の開催についてお礼を言いたい。ストーリーテリングは、子どもたちがお話の世界に入って没頭している姿をみることができる。講座があることで、より多くの子どもたちにお話を届けられるようになると思うので、感謝している。

9 会議録署名人 岡田 建志 会長

遠藤 浩子 委員

令和7年6月24日に開催された浜松市立図書館協議会の議事録の要点について、上記のとおり間違いがないことを確認した。

令和7年8月20日

署名 岡田 建志

署名 遠藤 浩子